小鯖小学校だより　6月号

令和元年 6月 1日
山口市立小鯖小学校

【めざす児童像】　お：思いやりのある子　さ：さわやか元気な子　ば：ばっちり学ぶ子

「個性を重視する」について一考…

校長 髙 田 修 司

「自由にのびのび」「個性重視」「子どもがやりたいことを」云々…。

とても耳あたりの良い言葉ですが、「自由」や重視すべき「個性」が何なのかをよく考えないと、教育の本質を見失います。

「子どもがやりたいこと」だけをただやらせていたのでは、もはや教育とも呼べません。

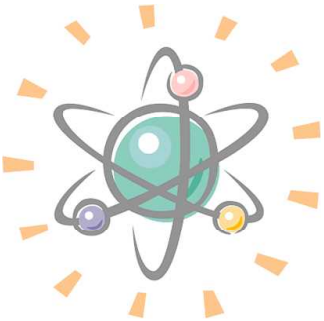
「自由」「個性」「やりたいこと」は、あくまで、「良識や常識」の上に成り立つ、と考えるべきでしょう。

そうでない行動は、世間では個性とは呼ばず、「野放図」とか「わがまま」と呼びます。

子どもたちに、これからの人生を生きていく基礎となる「良識や常識」を身につけさせるには、最初は何らかの「形」や「枠」が必要だと思うのですが、「型にはめ込むのはよくない」「管理教育ではないか」という思い込みが世間には意外と多いように感じます。

でもそのような方々とよく話してみると、目指している「形」や「枠」がその人の価値観に合ってないことが問題なだけで、一旦「型にはめること」そのものを否定しているわけではなかったりすることが多いようです。

大人はみんな「形」や「枠」を持っているのです。



そして、その「形」や「枠」の中でも、最大公約数的に正しいとか大切とされているものが「良識や常識」であり、たとえ今はその意味がよくわからなくとも、それらを子どもの頃から繰り返し耳にしておくことは大切なことだと考えています。

「枠」がわかると、「比べる」「測る」ことが可能になります。

つまり、自分の行動が「正しい」か「間違っている」か、そして「目指すべき方向」か「異なる方向」かが判断できるようになるわけです。

いかがでしょうか。

子どもたちが「自由でのびのび」「個性重視」で過ごせるようになるための素地として、今のこの時期だからこそ、「形から入る」教育が必要なのかもしれませんね。

＜運動会ギャラリー＞